

【相談内容】

No37-2.内在塩分の補修において、再劣化させないための留意事項について

- 1 巡目点検、2 巡目点検ともにⅡ判定のBOX橋で、今回の調査でうきが多く見られたため一部たたき落とし、鉄筋の状態を確認したところ鉄筋断面は残っている状況であった。
- 塩分量調査をしたところ、鉄筋位置での塩分が多い状態（内在塩分と想定）
- 単純に補修を実施しても再劣化が懸念されることから更新も選択肢として考えている。
- 今後どのように進めていくのがよいか助言を頂きたい。

【助言内容】

- 本橋梁に求める性能（耐荷性能、耐久性能など）を道路管理者としてどう考えているか整理することが重要
- その上で補修設計を行うためには、損傷の原因究明が重要であり、損傷要因を排除する事などにより、効率的な対策が図れる可能性がある。
- 損傷原因が内在塩分であれば、影響範囲を物理的に脱塩する断面修復工法及び打換え工法と、化学的に脱塩する脱塩工法がある。
- また、上記以外に脱塩を伴わない工法として、電気防食工法がある。
- 工法の選定にあたっては、道路管理者が求める性能、環境条件や構造部材などと維持管理の容易さ、経済性などを考慮して行うことが望ましい。